

平莊行進曲

後ろにそびゆる印南山前に流るる加古の川
風光優たり仁を生むここ平莊が我が里ぞ

春らんまんの花ざかり芝萌えいずる小畑より
蝶追いつつも原に出で学ぶ野外の楽しさよ

上部の瀬戸の水清くしぶきに躍る快男児
銀針九十何のその夏の心も忘れめや

秋中山のもみぢ葉に匂い出でたる初茸を
我は探らん師の君と奥新田の果までも

寺谷わたる夕鐘や西山陰に日は落ちて
一本松にあかねさす冬の哀はいと深し

世は文明に進めども人情日々に薄しとや
我は養老忠志の徒舜何人ぞ何人ぞ

六年八年のわざなればやがて世に出で名を挙げん
弁天池畔今に有るその古墳より尚高し

栄え弥増す平莊校祈りを掛ぐる山角の
宮に詣でば神木のうつつとして昼暗し

心もあかき報恩のいらかの数のそれよりも
磐の上に心していざ今よりは励みなん